ローザンヌ・ユダヤ人伝道協議会　日本支部発行

LCJE ニュース 253

2023 冬号

一部 ￥200

2023.1.1発行

〒541-0041 大阪市中央区北浜2-3-10　VIP関西センター3F　Eメール　lcjejapan@gmail.com
TEL. 072-867-6721　FAX. 072-867-6721　ホームページ　LCJEJAPAN.com

郵便振替　LCJE日本支部・00950-4-25633

Networking Jewish Evangelism LCJE

P2-3
イスラエルの救いと日本の救い　石井田 直二
P4-5
LCJE - パートナーシップの歴史　スーザン・パールマン
P6-7
サムエル・ウェイラーの驚くべき生涯　リッチ・ロビンソン博士
P8
お知らせ　事務局より

巻頭言

年頭のお祈りとして

LCJE 日本支部コーディネーター　C．クリンゲンスミス

新年 2023 年あけましておめでとうございます。

ともに新しい恵みの年を迎えることを許され、主に感謝いたします。

正直なところ、去年２月にロシア・ウクライナ戦争が始まってまもなく、もしかしたら今年は最悪の結果になるかもしれないと心配しました。つまりロシア・ウクライナ戦争が、止められない拡がりと核戦争に終わるということを連想したからです。けれども神様は憐れんでくださって、人類にもう一年恵みの年を与えてくださいました。

最悪の結果と申し上げましたが、そのように考えているのは私だけではありません。

去年の秋、友人の一人と食事をしている時、この戦争の話になりました。この友人はウクライナにも、ロシアにも、イスラエルにも知り合いがたくさんいます。「この戦争の行く末は、どうなるでしょうかねぇ？」と私が尋ねました。「う～ん。このままで続けば、かなり拡大することは避けられないでしょう。遅かれ早かれ、たぶん第三次世界大戦になる…。」と彼が言いました。彼は政府と政府との関係についてではなく、ウクライナ人とロシア人の間に、ますます深まる憎しみ合いに基づいて、そのように思うと説明しました。たしかに戦争というものは、単純に政府 vs. 政府ではなくて、強く憎しみ合っている民族 vs. 民族の場合の方が、和平を取り戻すことはいっそう難しくなると、歴史がよくよく証明しているからです。

そういうわけで皆さんとともに、平和をいっそう祈るべきではないかと思います。平和を取り戻す唯一の手段が、神の民の祈りだとすれば、「気を落とさずに、絶えず祈らなければならない…。」（ルカ福音書 18 章）という主イエス様の教えと望みに応えて、私たちは長年の祈りに励む覚悟をしているのでしょうか。

私は次のような祈祷課題を考えています。

1、**もちろんロシア・ウクライナ戦争が、一日も早く収束するように、とにかく停戦、和平交渉を改めて始めることができるように。**
2、**ロシアとウクライナにいるキリスト者たちも、ひたすら平和を祈るように。両側の多くの人々が祈っているかもしれませんが、それは多くの場合、自分側の勝利と有利で停戦になるようにという祈りかもしれません。そうではなく、早めの無条件の停戦と和平交渉を祈るべきではないかと思います。**
3、**この戦争は国家イスラエルのメシアニック運動に分裂を起こしています。ウクライナ出身、ロシア出身のビリーバーたちは、さまざまな立場を持っていますが、平和と一致を目指すように祈りましょう。**
4、**もし核戦争を避けても、ウクライナの再建の負担がすべてロシアに負わされないようにと祈ります。それは第一次世界大戦を終えたベルサイユ条約が、すべての責任をドイツ側に負わせた結果、次の戦争の種まきとなったからです。いろいろな理由で、いろいろな国がロシアへのリベンジを狙っていますが、そうならないように祈ります。**

神の民イスラエルに平和を、皆様の上に平安と祝福をお祈りいたします。シャローム！

「イスラエルの救いと日本の救い」～預言と私たちの役割～

シオンとの架け橋　石井田 直二

東京会場

11月3日に東京、7日には大阪で、ミカエル・ツィン師とデイビッド・トゥルーベック師を招いたセミナーを三団体（ＬＣＪＥ日本支部、シオンとの架け橋、ＣＰＭ日本支部）で共催しました。実会場での大型セミナー開催は約３年ぶりでしたが、東京では約１００人、大阪では約６０人と、予想を超える参加者がありました。配布資料が不足する一幕もありましたが、祝福に満ちた聖会となったことを感謝しております。

以下に東京会場での両講師のメッセージの要約をご紹介いたします。両会場のメッセージ録画は、ＬＣＪＥ日本支部のホームページ（ＹｏｕＴｕｂｅチャンネル）で公開しておりますので、どうぞご覧ください。

セッション1：デイビッド・トゥルーベック師

私はメシアニック・ジューの家庭で育ち、17歳の時に毎週の集会でヨハネ 3:16 を読み、主に命を捧げました。そして２５歳から宣教に携わるようになり、１２８年の歴史を持つチョーズン･ピープル・ミニストリーズ（ＣＰＭ）というユダヤ人伝道団体で働いています。

デイビット・トゥルーベック師

宣教の鍵は離散地にある

ユダヤ人伝道というと「イスラエルでするもの」という先入観がありますが、世界のユダヤ人の約半数は、まだ離散地に住んでいます。離散のユダヤ人も福音を必要としています。また、ユダヤ人は世界各地を旅行するのが大好きです。イスラエルでは、兵役が終わると多くの若者が世界各地へ旅行します。これは、宣教の良い機会なのです。

数年前に私たちが調査したところ、イスラエルのユダヤ人信者の８０％が国外で信仰を持ったことがわかりました。イスラエル国内では、家族や正統派ラビからの圧力があり、福音に心を開くのは難しいのですが、外国に出ている間は、それらの束縛から解放されます。

ですからＣＰＭは、ユダヤ人が多く暮らす地区や、多くのイスラエル人観光客が訪れるすべての国に支部を持って活動しています。

２０１１年から始まった祈り

東日本大震災が発生した３月11日のことは今でもよく覚えています。朝にテレビをつけると、日本の地震と津波の最初の報告と映像が入ってきました。その被災地の映像を見たとき、私の心は泣き始めました。でも、当時は伝道の働きを始めたばかりで、実際には何もできませんでした。それでも、私が毎日、日本と日本人のために祈り始めると、イスラエルで日本人クリスチャンと出会うようになったのです。

日本の文化はイスラエルでは非常に人気があります。日本のアニメ、日本料理、空手や柔道、また、東洋の宗教や思想に関心を持つ人が多いのです。そこで、日本文化を楽しみたいイスラエルの若者と、イスラエルに住む日本人クリスチャンを同時に招いた交流活動を行うことにしました。それは、**「ユダヤ人に妬みを起こさせる」ためです（ローマ 11:11）**。イスラエルの若者が日本のクリスチャンに出会うと、彼らは驚きます。日本がキリスト教国ではないからです。そして彼らは、日本のクリスチャンが信仰のゆえにイスラエルを愛していることを発見します。それは彼らが心を開くきっかけになるのです。

カンファレンスで初来日

2017 年 11 月、日本で開催された「ＬＣＪＥ東アジア･ユダヤ人伝道カンファレンス」に招待されて、初めて日本を訪れました。この旅行の中の祈りの時間に、日本とりわけ日本のクリスチャンが独特の使命を持っていることを知りました。イザヤ書の次の御言葉を読んだからです。

「…またわが名声を聞かず、わが栄光を見ない遠くの海沿いの国々につかわす。彼らはわが栄光をもろもろの国民の中に伝える。」（イザヤ 66:19b）

ユダヤ人と日本人は、ともに人口1％以下しか信徒がいない未宣教民族ですが、神はユダヤ人も日本人も愛しておられます。いつの日か、海沿いの島々である日本にリバイバルが起こると私は信じています。私たちは、互いのために祈らなければなりません。

ＣＰＭ日本支部を発足

日本にもユダヤ人コミュニティがあり、２千人以上のユダヤ人が住んでいます。東京、神戸には活発に活動するシナゴグがあります。また、コロナ前には毎年約４万人のイスラエル人観光客が日本を訪れていました。ローマ 1:16 には、「最初にユダヤ人、次に異邦人」という順序が指定されています。その順序に従って、日本の地においてユダヤ人に福音が宣べ伝えられるなら、日本人への

宣教も進むと信じます。皆さんの働きによって、ユダヤ人たちが日本でイエシュアを信じるなら、神は日本のクリスチャンを豊かに祝福してくださるでしょう。

そこで私たちは、内山アイザック先生ら日本の牧師たちと共に、CPM日本支部を開設し、東京にゲストハウスを開設しました。このミニストリーが効果的に機能するためには、日本の皆さんの霊的、また実際的な支援が必要です。

福音はイスラエルから始まって日本に伝わりました。そして日本のクリスチャンは、その福音をイスラエルの地に戻す使命を持っています。私たちはメシアの愛で結ばれた一つの体として、福音を広めるために効果的に協力して行きましょう！

セッション2：ミカエル・ツィン師

私の父はホロコースト生存者です。彼の両親は、戦争が始まった時に近所のキリスト教徒に殺されました。父は生き残りましたが、私に「キリスト教徒は敵だ」と教えてくれました。そして私は結婚し、33年前にイスラエルに移民しました。ところが、エルサレムで異邦人クリスチャンの夫妻に知り合ったのです。彼らの生き方を見て、すばらしいと思い、妻と一緒に彼らの生き方と信仰を受入れました。そして私はCPMイスラエルの責任者になったのです。

ミカエル・ツィン師

祝福と謙遜の深い関係

さて、今日は救いと祝福について学びましょう。創世記 12 章の約束は、アブラハムとその子孫を祝福する者を神様が祝福する、という内容です。全ての民族がアブラハム契約に従い祝福を受けられますが、それは「ユダヤ人を祝福する」という条件付きなのです。そして、もしユダヤ人を祝福しないなら、呪いを受けます。皆さんは祝福を受けたいでしょうか。もしそうなら、日本がアブラハムの子孫であるユダヤ人を祝福する必要があります。

問題は「祝福」とは何かです。健康、家族、高収入など、良い事は祝福です。病気や貧乏は祝福とは言いません。ところが、ヘブライ語で祝福を意味する「ブラハー」には、ひざまずくという意味があります。祝福は謙遜です。もし神様があなたを祝福したいと思われるなら、神は皆さんを謙遜にさせます。謙遜になれば、どんなことでも、喜んで受けられます。そうすれば神様の恵は、いつも十分なのです。

ユダヤ人を祝福するには、皆さん自身が謙遜になる必要があります。その謙遜を見て彼らが自分も謙遜になりたいと思うなら、それがユダヤ人を祝福することなのです。

心が砕かれた人は元どおりに満たされたいと思います。病気の人は健康になりたいと思います。自分が救いにふさわしくない罪人だと理解した時、はじめて救いが必要になるのです。だから謙遜は祝福です。これがユダヤ的な祝福の概念です。

大阪会場

ナザレの会堂での説教

新約聖書、ルカによる福音書 4:14 ～ 19 を読んでみましょう。イエスは御霊の力に満ちあふれて、ナザレの会堂に入られました。昔も今も、シナゴグの礼拝ではトーラーが朗読され、その後に預言書が朗読されます。イエスが預言書の朗読に指名されたことから、彼が尊敬を集めていたことがわかります。

そしてイエスは、イザヤ書 61 章から短く1節半を朗読されますが、それは「主の御霊がわたしに宿っている」に始まり、「貧しい人々に福音を宣べ伝え…」と続きます。ここをヘブライ語の原文で読むと「貧しい」が「謙遜な」となっていることに気づきます。この表現は山上の垂訓の「こころの貧しい者」（マタイ 5:3）という言葉に通じます。イエスは謙遜な人々に最初に福音を伝えたのでした。

引用箇所はさらに「囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、打ちひしがれている者に自由を得させ…」と続きます。これはメシア預言です。バプテスマのヨハネは獄中からイエスのもとに弟子をつかわし（マタイ 11:3 など）、イエスがメシアかどうかを聞かせました。イエスがメシアだったら囚人である自分が監獄から解放されるはずだと彼は考えたのです。そして、「打ちひしがれている者」つまり心が砕かれ謙遜な状態にされた人々が「自由」になるとイザヤは預言しています。

キリストの奴隷として

キリストは私たちを罪の奴隷から解放し、自由にして下さいましたが、それと同時に、私たちはキリストの僕、奴隷となりました。私たちは自分の力で罪から脱却できない状態でしたが、イエスは私たちの罪の値をご自身の血によって支払い、私たちを買い取って下さったのです。イエス様の十字架上の最後の言葉は「完了した」（ヨハネ 19:30）ですが、それは奴隷の負債の支払いが完了した時に使う語法なのです。

こうして罪から解放された皆さんは祝福されていますが、同時に謙遜でなければなりません。そして皆さんの謙遜を、まだ信徒でない人々、特にまだ救われていないユダヤ人にも日本人にも示さなければなりません。すると彼らは妬みを起こすのです。

ユダヤ人に福音を伝えようという、謙遜な思いを持っていただいた皆様に感謝いたします。全てのイスラエルが救われる時、日本もすべて救われると私は信じます。その日が早く来ますように！

LCJE - パートナーシップの歴史

ジューズ・フォー・ジーザス　スーザン・パールマン　翻訳　田中 身和子

スーザン・パールマン

タイのパタヤにあるホテルのプールの周囲で、ユダヤ人伝道に関する意義深いパートナーシップが始まったのは 40 年以上前でした。ローザンヌ運動が、その触媒となったのです。ユダヤ人伝道（ユダヤ人への伝道と弟子訓練）は当時すでに目新しいものではありませんでしたが、このパートナーシップによって劇的な変化が起こりました。

もちろん、ユダヤ人伝道の歴史は使徒や初期のクリスチャンたちにまでさかのぼります。また、1800 年代から 1940 年代までの近代宣教運動におけるユダヤ人伝道に向けた努力についても、多くのことが書き記されています。しかし、ヒトラーの支配下で 600 万人というユダヤ人が虐殺され、さらに、彼らに伝道を行っていたヨーロッパの宣教師の大半が強制収容所で命を落としてしまいました。

それが、ローザンヌ運動の歴史的背景でした。ローザンヌ運動は1974 年に結成され、当時切望されていたネットワーク、つまり伝道への情熱を持った人々、同じ志を持つ実務家、戦略家、研究者、神学者らの出会いの場を提供したのです。未宣教の人々への宣教など、画期的な活動がそこから生まれました。聖書翻訳、キャンパスミニストリー、人道支援など異分野間での協働の種が蒔かれたのです。

このローザンヌ運動の精神が、その傘下で今日まで最も長く活動するネットワーク「ローザンヌ・ユダヤ人伝道協議会（LCJE）」を誕生させました。この活動は、どのように始まり、どんな課題を抱え、どんな成果をあげたのかを振り返りましょう。

1980 年の 6 月 16 ～ 27 日、ローザンヌ世界宣教委員会（LCWE ／現在のローザンヌ運動）が主催する世界宣教会議がタイのパタヤで開かれ、900 人以上の参加者が 17 の小さな協議会（分科会）に分かれてミーティングを行いました。

彼らが決めた目標は以下の通りでした。

1）キリスト来臨までの間、教会に与えられた任務のための新たなビジョンと力を求める。

2）世界宣教の現状、進展、阻害要因などを見極める。

3）世界宣教の神学的・戦略的課題に関する長期的な研究プログラムを完了させ、その結果を共有する。

4）様々な特徴を持つ未宣教の人々に対して、具体的な伝道戦略を開発する。

5）LCWE（ローザンヌ世界宣教委員会）の役割の見直し。

この宣教会議の特徴の一つは、17 の分野それぞれについて、開催前の1年間に調査と研究を行い、現状をまとめた資料を持ってパタヤに集まることでした。その対象となったのは、イスラム教徒、カトリック教国の人々、都市居住者などでした。

その中に、ユダヤ人への伝道に関する協議会もあったのですが、メンバー数はわずか 18 人で、分科会の中で最少人数でした。しかし、この会議のために世界中のユダヤ人伝道関係者が多くの準備作業を行いました。実際に何百人ものユダヤ人伝道者が、この活動の取りまとめ役を担当していたデイビッド・ハーレーに報告書を提出したのです。当時、オール･ネイションズ･クリスチャン･カレッジの講師であり、エチオピアのユダヤ人に対する英国国教会の宣教師であったデイビッド氏の参加は、いくつかの理由から素晴らしい人選であったと言えるでしょう。1 つは、彼がイギリス人であったので、この活動の世界的な顔となり、広い視野を与えてくれたことです。また、彼はユダヤ人ではなかったので、当時は競合関係にあると思われていたユダヤ人伝道団体の間で、より調和のとれた協力関係を築くことができたからです。彼は学者でありながら実務家でもあったので、ユダヤ人伝道の様々な分野の人々と、信頼関係を築くことができました。

ローザンヌ運動の指導者たちが選んだもう一人の人物は、当時ルーテル教会のミズーリ州教区の伝道委員長だったアーヴ・コルブ博士でした。彼は米国ミズーリ州セントルイスの宣教師で、教団の年次大会でユダヤ伝道を強く肯定する声明文を作成したため、教団が攻撃を受けていました。ローザンヌ運動の指導者たちは、コルブ博士ならどんな反対にも動じないだろうと推察したのでしょう。

デイビッド・ハーレーは、ユダヤ人伝道に携わるリーダーたちに、問題点や障害、困難について話し合うと同様に、成功している手法や文書類についても話し合うように働きかけました。また、それぞれの地域のユダヤ人社会の動きと、それが今後の宣教に対して持つ意味についても検討するように求めました。そして、提出された資料は、全て翌年 6 月のパタヤでの話し合いの土台となると伝えたのです。

送られてきた報告書の量と、そこに書かれた意見や考察の質の高さを見て、ハーレー博士は驚嘆しました。そこで博士は、パタヤでの会議に多様な分野の参加者を招くことにしたのです。前述のように、当時はユダヤ人

伝道の分野での協力や連携は、非常に弱かったのです。その理由はともかく、ローザンヌの会議で行われた協議は、再出発の機会となりました。デイビッド・ハーレーは協議会後にこのように語っています。

「宣教の方法や千年王国についての理解の違いによって、話し合いが台無しになるのではないかと心配していました。しかし、その心配は無用でした。このグループは、ユダヤ人への愛と、イエスが彼らのメシアであり救い主であるという確信によって結ばれていたのです。」

各協議のグループは、その集団に属する人々に宣教するために、より効果的な方法について、最良の意見をまとめた報告書を作成するように求められていました。ユダヤ人伝道に関する協議会（分科会）が提出した最初の報告書は Lausanne Occasional Paper 7（LOP 7）として知られるようになりました。その内容は、ユダヤ人伝道の神学的根拠、世界のユダヤ人社会の分析、人口の変動と状態、ユダヤ人の宗教観、ユダヤ人伝道の障害、方法論と戦略などが含まれていました。この報告書は、ローザンヌ運動の指導者たちから高く評価されました。ジューズ・フォー・ジーザスの創設者で指導者であったモイシェ・ローゼンは、「LOP 7 が福音派の指導者や一般クリスチャンに読まれ、理解され、受け入れられるなら、ここに示された戦略は、ユダヤ人伝道の分野で宗教改革以来、最大の飛躍をもたらすだろう」と述べています。

デイビッド・ハーレーはまた述べています。

「協議の後で人々が気付いたのは、こうして出会い、意見を述べ、互いに励まし合うことの大切さです。私たちには共通の思いがあり、もっと一緒に働けば、もっと効果的に福音を伝えられると思ったのです。」

そして私たちは、単に報告書を作って終るのではなく、ネットワークを継続する必要性を感じました。それまでにも、地域によっては月例や四半期ごとの祈祷会が開催されていました。（特にロンドンでは、様々なユダヤ人伝道者が参加した祈祷会がありました。また、米国にもユダヤ人伝道関係者の集い Fellowship of Christian Testimonies to the Jews がありましたが、1970 年代初頭に解散していました。）しかし、ユダヤ人伝道関係者が世界的に集うような場はまだありませんでした。

そこで、デイビッド・ハーレー、オーレ・クヴァルメ、そして私（スーザン・パールマン）の3人は、LCJE（ローザンヌ・ユダヤ人伝道協議会）のネットワークの枠組みを作るよう、人々から依頼されたのです。参加資格は、ユダヤ人伝道団体、特定教派によるユダヤ人伝道活動、メシアニック・コングリゲーションの指導者、ユダヤ人伝道に従事する個人宣教師、研究者、著作者、神学者、この分野に関心のある宣教師などです。そして、私たちは会費を設定し団体の目標を定めました。

LCJE は、ユダヤ人の伝道の分野に携わる人々が集まり、ネットワークを作るためのグローバルな組織であり、次のことを目標とします。

- **情報とリソースを共有する。**
- **現在の傾向に関する調査と報告。**
- **神学的および宣教学的問題に関する互いの考えを刺激するより多くのユダヤ人が、救世主イエスのグッドニュースを聞いて考えるように、世界レベルで戦略を立てる。**
- **ユダヤ人の伝道に従事する人々に役立つ協議会とし機能する。**

LCJE の設立以来、ここヨーロッパだけでなく、世界各地で会議を開いてきました。米国地域は最も長い歴史を持つ支部で、これまでに 38 回の会合を開いています。4 年に一度、世界会議も開催してきました。前回の世界会議は 2019 年にカナダのトロントで開催され、次回は 2023 年にポーランドで開催される予定です。

しかし、本当のインパクトは、単に一緒に会うことだけではなく、次のような事柄です。

- **ユダヤ人への福音を推進するために、構成メンバーが協力し合う。**
- **研究論文、ケーススタディ、メディアや人口統計学の分析など、LCJE のメンバーが作成した膨大な量の資料が共有されると共に、定期的な会報や電子ニュースレターで情報が全メンバーに配信される。**
- **LCJE 加盟団体だけでなく、その姉妹団体が行う直接的なユダヤ人伝道活動。**
- **宣教スタッフの共同訓練、必要な地域への宣教スタッフの出向、LCJE ネットワークから始まったミシュカン（神学誌）のような独立プロジェクト。**
- **1989 年 4 月に行われた「ユダヤ人に対するキリスト教的アプローチに関するウィローバンク協議会」における宣言と 2008 年 8 月に行われた「今日のヨーロッパにおけるキリストの独自性とユダヤ人伝道に関するベルリン宣言」は画期的です。これら二つの宣言は、ユダヤ人に対する明確な証しの必要性を確認したローザンヌ誓約にもとづくものです。ローザンヌ運動全体の会議に出席し、運動と LCJE を結ぶ触媒となったのは、トゥビヤ・ザレツキー前会長、ボディル・スキヨット師、そしてダン・セレド現会長です。**
- **「ローザンヌ・グローバル・アナリシス」に複数の記事を掲載。**
- **「ローザンヌ・グローバル」のビデオに出演。**
- **Lausanne Occasional Paper の更新版の発行、特に 2021 年 4 月に公開された最新の LOP 67。**

LCJE が始まった頃、ユダヤ人伝道の分野では、多くの善意ある意欲的な宣教師や宣教指導者たちがそれぞれ独自に活動していました。それでも確かに福音の実は結んでいましたが、ローザンヌの旗の下に集うことで、もっと多くのことが可能になったのです。思いかえせば「ユダヤ人がメシアを知る」という目的のために、個人的な好みを捨て、共に働いた多くの人々の勇気と忍耐は驚くべきものだと思います。

しかし、この物語はまだ「執筆途中」です。次の章がどう展開して行くのか、見るのが楽しみです。

本部ニュース 139 号より要約

サムエル・ウェイラーの驚くべき生涯

リッチ・ロビンソン博士　　翻訳　駒井 洋子

リッチ・ロビンソン博士

（序文　一部省略　インターネットでは全文をご覧になれます）

ウェイラーは、1863年ロシア、クレスロー（ドイツ語名　ラトビア語でクレスラバ）の東欧伝統的宗教のユダヤ人家族に生まれました。12歳年上の兄ルドルフは、ユダヤ語に堪能で、彼は5歳でレビ記を暗記していたと言われています。それは少し怪しいと思われますが、町役場に書記として働くことを決めていました。しかし、ルドルフはヨセフ・ラヴィノヴィッツで有名なキシナウに旅行をし、アーネスト・カール・ルドルフ・ファルティン牧師に出会いました。彼は、数名のユダヤ人をキリスト信仰に導いた器でした。信仰を持ったルドルフは、ヴュルテンブルクのネッカーグレーニンゲンにある、求道ユダヤ人と回心者のためのアシュラムに出てゆき、そこからアメリカへ出発しました。

一方、サムエルはロシアのユダヤ虐殺（メイヤー）の不安からか、あるいは一般的学問の結果からか、両親が結婚のためシドウック（結婚のためのマッチメイキング；KS）を求めるのを嫌ってか、1880年ドイツへ向け出発しました。途中、危険にもほぼ遭遇することもなく、役人に賄賂を贈ることもありませんでした（KS）。彼は、当時17歳か18歳だったでしょう。その後、英国に渡り、そしてアメリカへ渡り、そこでルドルフに出会いました。しかし、彼はサムエルに経済的支援や職業を与えることができず、彼はアメリカ南部に行商人（メイヤー）として向かいました。当時多くのユダヤ人が行商人として、またアトランタの工場で働いていました。英語が上達するように、彼は教会に行き英語を聞き（メイヤー）、アトランタ（KS）の工場で英語を習得しました（KS）。このようにしてサムエルはクリスチャンホームに導かれていきました。当時のユダヤ人行商人たちはキリスト教になんらかの影響を受けていました。

サムエルは、ホストファミリーに何か読み物がないかと求めると聖書が与えられました、そして新約聖書に興味を抱きました。詳しいことは不明ですが、彼はミズリー州（メイヤー）にある会衆派教会の牧師に、あるいはシカゴ（KS）の教会に連絡を取ることができ、1884年21歳のころに洗礼を受けました。実際には、いつ頃信仰の歩みを始めたかは不明です。

ルドルフとサムエルの兄弟は優秀な学生でした。ルドルフは、シカゴ神学校に行き、一方サムエルはイリノア州、ゲイルズバーグにあるノックスカレッジに1885年入学し、1888年卒業しました。再び彼はクリスチャンホームの、ウイラード教授とその家族、あるいはノックスカレッジの財務担当 A・J・ペリー家に滞在しました。

サムエルは、卒業と同時にイエール神学校に入学しました。そこで、ヘブル語教授ジョージ・E・デイ と知り合いました。デイ・ミッション・ライブラリーは彼の名がつけられています。デイ教授は、コネティカット州ニューヘヴンで、ユダヤ人のための宣教師になるようにサムエルに勧め、彼は毎月レポートを教授に提出しました。また、デイ教授は彼に、3000巻のトローブリッジ・レファレンス・ライブラリーの目録を作るよう命じました。ウェイラーは、1891年、28歳の時に学士号を取得しました。

ノックス・スチューデントによると、すでにロシアにいたころには、脆弱な健康でした。そこで、1890年には過労と慢性の喉疾患のため、コロラドのより健康に良い気候をもとめて西へと向かいました。1892年には、彼はデンバーの会衆派教会から聖職者として按手を受け、その年か翌年にワイオミングのバッファローに出発しました。そこで4年間、会衆派教会の牧師として牧会しました。そこは会員31名の小さい教会で、牧師にとっては幸先のよい教会とは言えないものでした。

レッセンジャーによれば、

「バッファロー会衆派教会は聖職者にとって好意的な教会ではありませんでした。最初の牧師は、牧師に公衆の前で説教されたことに教会員が抗議をし、6か月後に解雇されました。2番目の牧師は、賭け事反対と説教をしたため、自分の肖像が絞首刑にされたため、慌てて町を去っていきました。最初の八年間に、7人の牧師が就任し、教会を去りました。その後、長い間牧師は不在でした。そして、ジョンソン軍戦争が勃発しました。これは、大牧場の所有者と入植者たちの間で土地と水の権利を争ったものでした。」

戦争の緊張と対立のためバッファローの教会は破綻寸前となり、1890年に会員の半数が撤退し牧師は解雇されました。

必ずしも新牧師にとって親密な状況にあったわけではありませんが、どういうわけか、ウェイラーの牧会は4年（あるいは3年、KS）続きました。教会の事務員であったメアリィ・ワトキンズという女性が、ウェイラーの牧会後に教会に再度出席していました。そこに、彼の容姿について匿名のコメントが少し残されています。「彼が話しを始めると、どんな時でも聴衆は、彼が小柄で色黒で

あることを忘れてしまう。」というような記述があります。また、「ウェイラーは、中背よりも低く、おそらく体重は56kg ぐらい。彼は色黒で髪の毛は黒く、鋭い黒い目をしている。彼の話す英語は明らかに難しく、ロシア語のアクセントで話す。しかし、文法的には完ぺきで素晴らしい」と書かれています。彼の話す能力は、カリフォルニアの牧師の集会レポートにおいて公認されています。ウェイラーがプログラムで主席の位置についたとき、年長の牧師たちは「このロシア人」について懐疑的であったにもかかわらず、彼が話始めると、たちまち彼らは異議を撤回し納得してしまいました。

ウェイラーの次の牧師職は1896年、カリフォルニア、ベニシアの会衆派教会に向かっているときにやってきました。移動は、明らかに健康上の理由でした（のどのトラブルはまだ続いていました。KS）。年内には、メアリィ・ワトキンズと義理の妹ハリエットは病気が再発したウェイラーに付いて、彼を介護するためにベニシアに移って、牧師館に越してきました。当時、ハリエットは57歳、メアリーは64歳でした。彼女たちは、若い牧師のため母親代わりとして仕えていたのです。ベニシアでは、ウェイラーは後のベニシア高校となる学校を始めました。

ウェイラーは、教会の集会の時に倒れたようで、健康を取り戻すためカリフォルニアのサラトガに送られました。そこは、サンホセからそれほど遠くない暖かい場所でした。そこで彼は、E·S·ウィリアム師宅に滞在しました。しかし、彼は健康を取り戻すことはありませんでした。1898年2月8日、34歳で亡くなりました。彼は結婚をしたことはなく、葬儀は他教派の牧師の参列によって執り行われ、ベニシア市共同墓地に葬られました。今でも彼の墓はそこにあります。墓地は荒れ果て、墓碑銘が刻まれていたと思われる墓石は、すっかり風雨にさらされ、「ウェイラー」という名前のみが囲い石に刻まれているのを見ることができます。

ウェイラーの博識と神学的展望

ウェイラーは急速に英語をマスターし優れた話者であると証明しました。ノックスの卒業資料には次のように書かれています。「1885年、ウェイラーは、たった3年間英語を習っただけでロシアからノックスへやってきたとディーン・ウィラードは述べていた。その年の一年生の作文コンテストでウェイラーは受賞作品を書いた。その作文はウィラード教授がノックスに在任したときの中で最も優れた作品の一つだった。作文は、巧みな構成と美しい言語による素晴らしいものだった。」

ウェイラーは、3作品をノックスに残していました。「イエスとパリサイ人」と言われる1891年の短い作品。「パウロのラビ的教育」という1892年の内容のある論説、そして1893年の「新サンデースクールの教科システム」という作品は、バッファローの教会の日曜学校のため短く修正したものでした。1891年の記事は、基本的には、表題に対するある学者の見解についてのコメントでした。1892年の使徒パウロのラビ的教育という作品の中で、「パウロの神々しい魂の輝き」について記述しています。しかしながら、ウェイラーはこの作品での聖書解釈学的アプローチは、穏健な評論と評する立場を取りました。彼は、聖書無謬性を採用しているものではありません。彼にとっては、それがアメリカのある福音主義界の主義となっていることは問題ではありませんでした。

ノックス・スチューデントは、彼の見解を次のように記しています。「彼は説教をすることを愛し、それを生涯の務めと信じていた。彼の見解は、広く普遍的だった。しかし、彼の説教は、ほぼ例外なく信仰に専念し、神学ではなかった。人々をより高度な生活へ導くこと、「主のイメージを」彼らの中に形作ること、これがウェイラーの目標だった」。

（中略　インターネットで割愛している文章をご覧になれます）

サムエル・ウェイラーの生涯は短いものでした。どこで聞いても、彼は強い感銘を与えるスピーカーで、熱烈なユダヤ人宣教の擁護者であり、人々に愛された牧師でした。ノックス・カレッジのウェイラー卒業ファイルは詳しく記述しています。

「この若い学生（ウェイラー）は、著名な雄弁家に紹介された。ウェイラーは自分の国籍はどこか当ててくださいと言った。その相手は、『おそらく、君はヒンズー教徒か東インド出身だろう』と答えた。ウェイラーは、『私は、生まれはユダヤ人の家系に、国籍はロシア、教育はドイツで受け、アメリカで採用され、神の恵みによってクリスチャンになりました。』と即座に答えた。」

なんと素晴らしいウェイラーの人生の要約でしょうか。彼の死後48年経って、かつての彼の学生の一人がウェイラーの牧師としての資質について温かい回想を記しています。

「サムエル・ウェイラー、人生を一新した物静かな人物…彼は、私たちの小さな教会へ、その深い神の知恵を注ぎ込むことを望み…また彼の瀕死の肺のため…この地の癒しの太陽の日差しの中で…しくしく泣いている女の子と痛みと葛藤の暗いベールを通して語る忍耐深い人…それでも、彼は善と悪の解決のカギを握っていた…そして、彼は、忍耐と暗闇から連れ出し、神の栄光をほんの少し垣間見るようにしてくれた。」

いま私は、この記事を読んでいる方々に問題提起をしたいと思います。もしかして、あなたの住んでいるところに、ほとんどの人が知らないイエスを信じるユダヤ人信者がいなかったでしょうか？　彼らを知る一番の手立ては、近くの歴史博物館、地方紙や教会のアーカイブを訪れ、そして、町の歴史家に聞いてみることです。ことによったら、あなたが発見したことが、イエスを信じるユダヤ人信者や、教会全体の歴史に価値のあるものであるかもしれないのです。

LCJE は、ユダヤ人伝道団体の情報交換ネットワークです。加盟しているユダヤ人伝道団体それぞれの立場・活動を尊重して、機関紙などに情報を掲載しています。しかし特定の立場・教理などを、LCJE として支持するものではありません。読者におかれましては、個々の見識によって提供される情報を判断してくださいますよう、お願いいたします。

2023年度祈祷会予定

場　所	1月	2月	3月	4月	会　場
大阪（6:30より）	12日	9日	9日	13日	北浜スクエア（VIP関西センター8F）
東京（1:30より）	14日	11日	11日	8日	御茶ノ水クリスチャンセンター 8F 811号室

【大阪祈り会にご参加される方へ】第二木曜日午後 6 時半開始です。
【東京祈り会にご参加される方へ】ご注意ください▶通常祈り会の会場は、811号室ですが、変更される場合があります。
階下の掲示板をご覧になってご参加ください。

LCJE オンライン例会

大阪・東京の祈祷会に加えて、オンラインでの祈祷会を月1回（第四火曜日夕刻）開催しています。パソコン、タブレット、スマホのいずれでも参加いただけます。参加希望の方は、前日までに naoji@zion-jpn.or.jp（石井田）までメールでお申込み下さい。

イスラエルの歌 1・2・3

サムエル企画様が「CD」化しておられます。それだけではなく、伴奏音源（カラオケ）も作成してくださいました。
是非この機会にご購入いただき、また、友人知人にもお知らせいただけたらと願っております。

内 容	金 額	注文件数における特典
全 6 枚・税・送料込み　全 50 曲　CD6 枚 （歌入り 3 枚・カラオケ 3 枚）	10,420 円	5 セット以上の場合、送料無料。 金額も 50,400 円とお得。
歌入り全 50 曲 3 枚組　CD 1　CD2　CD3	各 2,300 円	
伴奏全 50 曲 3 枚組　CD1　CD2　CD3	各 1,400 円	歌いやすく、ガイド入り

「イスラエルの歌　CD」申し込みは以下の手順でお願いします。

販売制作：サムエル企画　代表：鳥谷部 裕之　住所：京都市右京区太秦安井馬塚 6-4
電話・ファックス：075-813-7873　電子メール：samuelplanning.@yahoo.co.jp

LCJE日本支部 2022年11月度会計

収入・献金		支出・現金	
科　目	金　額	科　目	金　額
献　金	55,500	事　務　費	3,300
大阪祈り会席上献金	10,000	NEWSレター製作費	0
		郵　送　費	0
		郵便振替手数料	3,850
		通　信　費	3,000
		賃借・管理費	22,000
		高熱費・共益費	9,899
		交　通　旅　費	5,000
		祈り会経費	3,000
合　計	65,500	合　計	50,049
		差　引　残　高	15,451
前月よりの繰越	644,918	次月繰越金	660,369

事務局よりのお知らせ

LCJE 日本支部では、皆様からの御投稿をお待ちしています。インターネットでの御投稿、原稿用紙での御投稿いずれも大歓迎いたします。
文字数は 2000 文字前後、投稿記事は郵送か、
LCJEJAPAN@HOTMAIL.COM
又は **FAX 072-867-6721** まで。宜しくお願い致します。

感謝とお願い

コ・ワーカーの皆様、LCJE 日本支部を覚え篤くお祈りくださり感謝いたします。2022 年も皆様の尊い献金で支えてくださり委員一同心より感謝しています。今後も上からの知恵を慎重に仰ぎつつ LCJE 日本支部のできることを主にあってさせていただきたいと願っています。今月号も興味深い素晴らしい内容の記事が翻訳され読むことが出来ます。激動の時代ではありますが、今年も多くのユダヤ人が主とお出会いし救い主を受け入れ、救われます様にお祈りください。心注いでイスラエルの平和を執り成しお祈りいたしましょう。コ・ワーカーお一人お一人に主の豊かな祝福がありますように。

シャローム
LCJE日本支部事務局長　高瀬真理

LCJE日本支部は、皆様の尊い献金で支えられています。感謝